



千鳥文化

©Yoshiro Masuda



春日台センターセンター

©morinakayasuki



HOGET

©YASHIRO PHOTO OFFICE



コードマーク御代田

くまもとアートポリス建築展2024 メインシンポジウム

「新しい公共性とは何か」

～若い建築家達の取り組む小さなコミュニティ～

若い建築家達は都市部でも地方でもかつてのような行政の考える公共建築にはあまり関心がなく、空き家再生から周辺に広がる小さなコミュニティをつくろうというような活動に生きがいを感じているように感じます。

私もこうした小さな活動をネットワーク化していくことにしか現状の日本社会で意識的な若い建築家の生きる道はないと考えます。シンポジウムではこうした活動を続けている若手建築家達に語り合ってもらいたい。

くまもとアートポリスコミッショナー 伊東豊雄

11/23 sat

シンポジウム

13:00~17:00 (OPEN12:30)

[定員250名]

事前申込優先
入場無料



建築展HP

くまもと
アートポリス
建築展
2024

会場 ホテル熊本テルサ 1階テルサホール(熊本市中央区水前寺公園28-51)

交流会

17:30~19:30

会費 一般:6,500円
学生:2,400円

[定員150名]

事前申込優先



申込はコチラ

会場 ホテル熊本テルサ 3階たい樹(熊本市中央区水前寺公園28-51)

主催/熊本県、くまもとアートポリス建築展2024実行委員会

共催/一般社団法人公共建築協会

問い合わせ先/くまもとアートポリス建築展2024実行委員会事務局(熊本県建築課) 電話096-333-2537

Program

第1部 基調講演

これからの公共建築は「みんなの家」である

伊東豊雄 くまもとアートポリスコミッショナー

「小さなコミュニティ」に関するシンポジウムの主旨を位置づけるため、出演者や参加者に向けてのレクチャーとして講演いただきます。



©藤塚光政

第2部 事例発表

小さなコミュニティづくりに関わる若手建築家等による事例

大阪、東京、長崎、長野を拠点として活動されている若手建築家等の取組みを御紹介いただきます



家成 俊勝
ドットアーキテツ

私たちの拠点「コーポ北加賀屋」と私たちが設計した地域の交流拠点「千鳥文化」を通して大阪市北加賀屋の状況をお話します。

北加賀屋は高度成長期以後の産業構造の転換によって空洞化した工場街です。そこにデザイナーやアーティストが入ってきて少し賑わいを取り戻しつつあります。私たちの活動を通して、そのプロセスをお伝えできればと思います。



金野 千恵
teco

2022年、地域共生文化拠点「春日台センターセンター」というケアサービスを核とする拠点が竣工しました。資本主義の原理や、近代化の制度整備のなかで取りこぼしてきたような地域資源、人々の活動に触れ、それらを礎に民の力で立ち上げた拠点です。

これからの自律的なまち・環境づくりについて、皆さんとお話出来るのを楽しみにしています。



佐々木 翔
インターメディア

長崎・島原を拠点に活動しています。過疎化や人口流出が急速に進む地域にもかかわらず「HOGET」を皮切りに『ひとが集まる場所』をつくりたいという依頼が断続的に続いており、結果的には自らも「水脈 mio」という場の運営を行うようになりました。

私からは長崎やその周辺で起こっているそういった状況の一端をお話したいと思っています。



森田 秀之
マナビノタネ

守り手がなくなった農地や山林、社会インフラを、住民自らで守っていかなければならないとしたら、ひとりではできないことを身近な仲間とともに『自分たち事』として行なっていく拠点、「共有（コモン）」の場づくりが必要ではないか。

ここでは、その実践例として「コードマーク御代田」を紹介しながら、住民自治についても考えていきたいと思っています。

第3部 ディスカッション

新しい公共性とは何か

第2部で小さなコミュニティづくりに関わる若手建築家等と、くまもとアートポリスコミッショナー・アドバイザーにより、「新しい公共性とは何か」を議論します

家成 俊勝 / ドットアーキテツ
金野 千恵 / teco
佐々木 翔 / インターメディア
森田 秀之 / マナビノタネ

+

伊東 豊雄 アートポリスコミッショナー
桂 英昭 アートポリスアドバイザー
末廣 香織 アートポリスアドバイザー
曾我部 昌史 アートポリスアドバイザー